

令和7年9月5日

カフェ説明会・予行練習



8月は保護者会がありました。保護者会の時間を使って、子どもたちから来年1月に開催予定の子ども企画の子どもカフェにご理解とご協力を保護者の方に頂くため、子どもたちが自分たちでパソコンを使って資料作り、発表をしました。

午後は子どもカフェの予行練習をしています。保護者と職員からアドバイスをうけ、練習を繰り返しました。

カフェ説明会・予行練習の準備に約4ヶ月の時間をかけています。

子どもの中では、「うまく出来ない」、「先が見通せない」などを理由に挫けて泣いてしまう子どもも・・・。

それでも、職員が「子どもカフェ、やめる？」と聞くと子どもたちは「やる！」といます。職員も子どもたちの意思を尊重し、叱咤激励しながら療育を続けています。



子どもたちは、私たちが思うたったこれだけの事で躓きます。

・例えば・・・コップを静かに置く、大きな声で発表する、お辞儀の仕方など

でも、彼らにとっては難しく、**毎日練習を繰り返す必要**があります。

(つまり、**療育を繰り返しているのです。***「療育」については、令和7年4月のゆうゆうの療育にてご紹介しております。)

そうしないと、身につかずどうしても同じところで躓きます。

毎日、**療育**を繰り返す。だからこそ、ルールやマナー、コミュニケーションなど社会で生きていくための知識や動作等が身に付き、彼らの**生きる力**に変わっていきます。

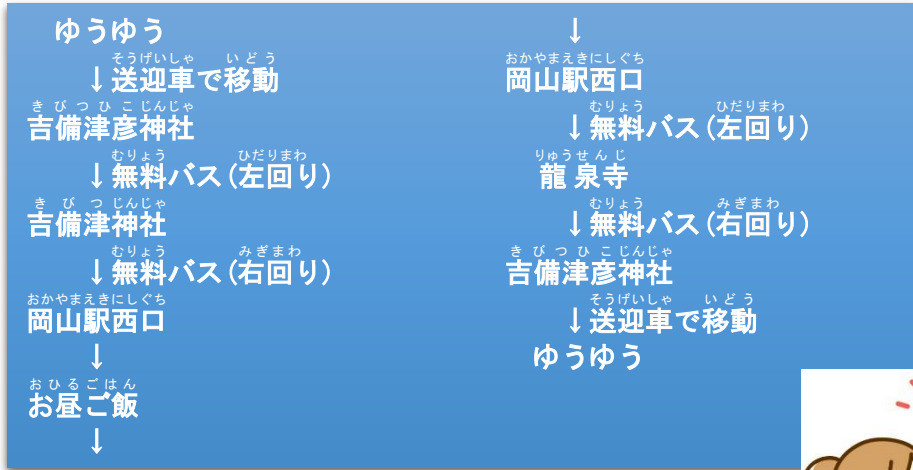


きび むりょうじゆんかん
吉備ロマン無料循環バス



じかん じぜん こ あさはや きびつひこじんじゃ
時間をかけ、事前に子どもたちでスケジュールをなんとかたて、朝早くに吉備津彦神社へ。
バスが遅れるなどスケジュールが変更になりながらも楽しく1日を過ごすことができました。
バスの運転手さんにバスに乗る時は、降りる人を持ってから乗ると教えていただきました。
また、職員にお手本を見せてもらい、降りる時は運転手さんにお礼を言うことができました。
暑い中でしたが、自然に囲まれ子どもたちは元気で神社の階段を登っています。
子どもたちが大きくなったからか、予想よりも神社やお寺に興味をもってくれ、一緒に茅の輪くぐりを体験しています。他にもお参りや手水の作法を学び、体験しています。
自分たちで計画をたて、実行した達成感もあったようで、いつもよりもお昼御飯がおいしく感じましたようです。

こ きび むりょうじゆんかん けいかく
子どもたちがたてた吉備ロマン無料循環バスの計画



←きびつひこじんじゃ 吉備津彦神社

きびつじんじゃ 吉備津神社 →



りゅうせんじ 龍泉寺





ゆうゆうの療育

～8月だより～

保護者会



ゆうゆうでは、年1～2回程保護者会を実施しております。

○内容

保護者の皆さんの知りたい、学びたいという気持ちに沿った内容となるように考えています。

またゆうゆうでは、保護者のための保護者会ではなく、「子どもたちのための保護者会」となるように工夫しています。

そのため、保護者会の内容は子どもたちに詳しく伝え、子どもたちが納得した上で保護者会をしています。

今回行われた保護者会では、2つのプログラムを組んでおります。

1つ目は、講話形式：制度や福祉サービス等の知識を学ぶ。

子どもの様子を他者に伝える時のポイントやどう伝えれば良いか

保護者が実際に考え、意見等を伝え合う技術を学ぶ

2つ目は、子どもの成長を感じる、自然と保護者が職員と共に療育していく。

ゆうゆうが、このようなプログラムで保護者会をするようになった理由は、

- ・ゆうゆうの療育を理解していただき、知識や技術を身につけられる場所
- ・保護者が自分の考えを伝えられる場所
- ・子どもの成長を感じられる場所にしたい
- ・子どもたちのための保護者会にしてゆきたいと考えたからです。



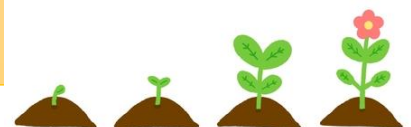
～継続は力なり～

“どんな小さなことでも続ければ、必ず成果となる。”という意味です。

その意味の通り、保護者会を重ねていくたびに保護者の方に変化が見られました。

大きな変化ではありません。小さな変化です。

けれど、とても大切な変化だと感じています。



吉備ロマン無料循環バス



なつやす じかん こ けいかく しゃかいたいけん でき きちよう じかん
夏休みは、時間をかけて子どもたちと計画をたてた社会体験が出来る貴重な時間です。

いつもは、職員が中心に計画をたてることの多い社会体験ですが、今回の吉備ロマン無料循環バスは子どもが中心になって計画をしています。

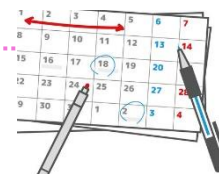
子どもたちが、バスの時刻表を見ながら1日のスケジュールをたて、実行してみました
発達障がいには、先を見通す(計画をたてる)ことが苦手なことが多く、柔軟に物事を考えることが困難です。

最初の躰きは、時刻表の見方がわからない。
時刻表の見方がわからないため、左から順番にバスが進む。これがわからない。

つまり、スタートとゴールがどちらかわからないということです。

二つ目の躰きは、同じバスに何度も乗れないと考えてしまう、右回りと左回りがあるとしたら、一つしか考えられないなど、マイルールや柔軟に物事を考えられません。

あるお子さんは、イラつき計画することを放棄してしまい、泣いてしまうことがありました。それでも、計画をたてるように促します。もちろん、最初よりも助言や補助を出します。



計画をたてることは、社会人としてとても重要です。

特に一般就労をする発達障がいのあるグレーゾーンの子どもには。。
計画をたてられなければ会社での通勤、タスクがこなせません。仕事に影響するということもありますが、人間関係にもっとも関係することです。

- ・スケジュールがたてられず、友達との約束を破る。
 - ・仕事の優先順位を考えられず、仕事が間に合わずに同僚や取引先に迷惑をかける。
- これも、社会に出れば予想できることです。

計画やスケジュールをたてることで、自分がいつ何をやるか明確に分かります。分かれば先が見通すことができ、発達障がいのある人は、動きやすくなる。それと同時に人間関係構築にも役立ちます。

- ・ちゃんと約束を守る。
- ・信頼などに繋がるからです。

